



さいたま市介護支援専門員協会
ロゴマーク

PARALLEL STAIRS

Vol.27

2012年秋号

平成24年度 第2回全体研修会

開催日時 平成24年7月27日(金) 15時00分～16時30分
開催場所 さいたま市プラザウエスト 第1セミナールーム

本年度 第2回目の全体研修会は、「嚥下勉強会～胃瘻から口腔摂取まで～」について日本大学歯学部付属歯科病院 摂取機能療法科の島田みのり氏・神村智里氏をお招きし「嚥下のしくみ」「嚥下悪化に伴う疾病」などについてご講義いただいた。

訪問看護ステーション、在宅医療に尽力されている方など、多数の参加があった。

嚥下の仕組みについて、内視鏡を使用しての実演もあり、参加者は、講義に興味深く耳を傾けていた。嚥下の問題は利用者の生活に密着したものであり、ケアマネジメントの中でも課題の中心に位置づけられることが



多い。

① 嚥下のメカニズムについて

私達は普段何気なく食物を食べ、飲み込んでいるが、嚥下の障害には予兆があり、具体的に「食事の食べ方」や「食事の趣向の変化」・「食欲の低下」など様々な症状が出現し摂食・嚥



下障害につながっていくことがある。また、口腔・咽頭・食道内の腫瘍や脳梗塞などの脳血管性疾患が原因となることもある。

② 口腔ケアによる嚥下の悪化予防と改善について

口の中には多くの（億単位）細菌が誰にでもあり、時間とともに増え続けている。その数を減らすことは、誤嚥性肺炎などの予防につながり、そのためにも、口腔ケアは非常に重要。また、口腔内の乾燥は菌や義歯を汚染するだけでなく、舌苔（ぜったい）が付着したり、歯周病など様々な症状を引き起こす。口の中が乾燥しないように、保湿剤や人工の唾液などを使用することもある。今回は、唾液が出やすくなる『唾液腺マッサージ』を紹介させていただいた。（結構効きそうです！）口の中を清潔に保つことは、嚥下訓練の効果にも影響する。

③ 内視鏡検査（実演）

写真やビデオではなく、内視

鏡を使用しての実演があり、目の前で実際に水やゼリーなどを飲み込む様子を確認した。被験者は若い方で、気管や声門の開閉する様子はメリハリのある素早い動きだが、嚥下機能に障害がある高齢者には大変な様子が見え、つきりと理解できた。

今回の研修は、難しい内容を

分かりやすくご説明いただき、嚥下障害を患っている方や、胃腸を利用している利用者の今後の支援に大きく役立つものとなった。嚥下を悪化させないためにも、口腔ケアなど日々の予防が重要であるとともに、高齢者の生活の様子の変化を見逃さないことも重要だと感じた。

北区・見沼区合同ケアマネサロン

「ケアマネ情報交換」くお互いの地区を知ろう

開催日時 平成24年7月11日（水） 14時00分～

開催場所 北区 高齢者ケアセンターしらかば

昨年度までのサロン活動は、近隣の区との合同開催が多く、それ以外の区との関わりが少なかった。

今年度は、さいたま市内各区との関わり、視野を広げていくことを大切と考え、北区・見沼区合同でサロンを開催した。

高齢者ケアセンターしらかばにて、見沼区16名、北区10名の会員が出席し、自己紹介、困っている事、各区のサービス提供情報などの意見交換を行った。全体を5つのグループに分け、話しやすい環境を作り、各グループで話し合った内容を発表した。

共通していたものとして、施設入所に関する事（医療が必要な方、薬の単価、生活保護受給者が使える施設が限定される）、医療依存度の高い方向けのサービスについて（通所介護、ショート利用など使える場所が制限される）、低所得者へのサービス（利用できる施設、サービスが少ない）、ケアマネ自身の業務の効率

化（長期目標の期間や担当者会議の開催時期など）について意見があった。

その他、日頃のサービス支援で困っていることの事例を出しながら、各ケアマネジャーが持っている考え、地域、サービス利用などの情報交換も行った。

北区との初めてのサロンで、最初は緊張感もあったが、支援

内容、悩みなど色々な共通点があり、話しをしていくうちに場も和み笑顔で話しをすることができた。今まで、近隣の区との合同サロンが多かったので、新鮮さを感じた。

これから高齢化社会に向かう今、さいたま市のケアマネジャーが横のつながりを持ち、情報の共有、スキルを上げていくこと

により、より効率の良いサービスの提供、支援ができるようにしていきたい。



大宮区ケアマネサロン

「ケアマネジャーに必要な医療知識と訪問看護との連携」

開催日時 平成24年7月25日（水） 15時00分～16時30分

開催場所 さいたま市社会福祉協議会 大宮サービスセンター

7月25日大宮区ケアマネサロンをさいたま市社会福祉協議会大宮サービスセンターにて開催。「ケアマネジャーに必要な医療知識と訪問看護との連携」について、さいたま市社協訪問看護師

藤知子氏を講師にお招きし、昨年

年に引き続き第2弾ということ

「ケアマネジャーに必要な医療知識と訪問看護との連携」について、さいたま市社協訪問看護師

のご協力をいただいた。身体

のしくみについての講義や、胃ろうのカテーテルの種類、観察ポイントについて、口腔ケアの方法や必要性、また経腸栄

養の試飲なども交えた内容で行われた。

参加者は、新しい顔ぶれも含め13名。胃ろうについての是非が問われる昨今であるが独居や高齢者世帯が多い大宮区では、家族の介護力を考慮し、ケアマネジャーとして、医療機関や訪問看護と連携しながら、どうかかわっていくか今後の課題と考

えられる。



「24年度第1回研修会 施設ケアマネサロン」

開催日時 平成24年6月23日（土）13時30分～15時30分
開催場所 特別養護老人ホーム 浦和しずや苑（緑区）

恒例の「施設ケアマネサロン」は今回、「施設の感染症対策」をテーマに、施設職員なら誰でも参加できるオープン形式で実施した。

3グループに分かれて意見交換を実施。主な話題はノロウィ



ルス、インフルエンザ、疥癬など感染症対策。持参された各施設の感染症対策マニュアルを回覧したり、活発な意見交換の場となった。また、面会者に対す

る手洗いやマスク着用の勧奨、換気・掃除・消毒液の希釈方法



など具体的な業務について、スタッフが感染症を発症した時の対応方法、面会者による食品の持込みなど、休憩中も話題は尽きないようであった。終了後には名刺交換の場面も見られ、充実した情報交換と交流の場となったようである。

定員を上回る申し込みがあり、スタッフを含め31名と、過去最

高の参加者が集まった。施設種別では有料老人ホームからの参加者が13名と最多であり、研修や交流の場を求める声が高いことが確認できた。

今後は、高い参加者数が維持できるようにサロン活動を始め、施設ケアマネ研修を継続していきたいように努力していきたい。

介護支援専門員（居宅）研修会

「事例検討の方法を学ぶ」

～支援者や支援経過を鏡として自分自身を見つめる～

開催日時 平成24年7月7日（土）13時30分～17時00分
開催場所 特別養護老人ホーム ナーシングヴィラ与野

本研修は、「介護支援専門員の質向上を支援する事例検討会の方法に関する研究」の一環として、施設介護支援専門員研修でお馴染み、神奈川県立保健福祉大学の峯尾武巳先生を講師に開催。

ファシリテーターに弘前医療福祉大学の大沼由香先生をお招きした。参加者は、事前にアンケートと研究協力同意書を記入した上での参加となった。

前半は、「チームケア・連携と



協働「サービス」「感情労働」「共感疲労」などキーワードで考える、介護の特徴、生活支援の概念、ICFの視点などの講義。後半のグループワークは、事例検討資料に対象者のプロフィール、事例提供の動機、問題と感じている事柄を記入。リフレクションのフレーム（stage 1. 記述・描写、stage 2. 感情、

ことなく、リフレクションの概念を参考にした事例報告用紙を作成することで、そのときそこにある限られた情報で検討会を行う、という方法で事例提出の負担感を軽減し、開催目的を明確化することを目的として企画、実施された。

終了後の感想では、「問題に対して、その場で起こった出来事

stage 3. 評価
stage 4. 分析
stage 5. 総合、
stage 6. 行動
評価）に基づき、二人一組となり口頭で説明。その後、4人もしくは6人のグループで、「どこでもシート」と名付けた書き換え自在のシートに記入する、という方法で進化した。

このように、今回の事例検討会は、事前に事例を用意する

（現象）とその時自分はどう感じたか（感情）を分類することに留意していきたい」「事例の詳しい内容がわからなくても分析ができることを学んだ」「今まで事例検討に対して拒否感があったが、今後はあまり肩肘を張らずに行っていきたい」「地域包括として事例検討会を定例化していく上で参考にした手法です」などがあがった。

30名の定員に対して申込み33名、欠席7（事前連絡4、当日3）名、出席者29（内スタッフ3）名が参加した。また今回は、いわゆるベテランケアマネさん、地域の中心的存在の顔ぶれが多く見られたことが特徴的であった。



なお、この「新しい事例検討会の方法に関する研修会」は、今年度の施設ケアマネ研修会でも実施することが予定されている。また、来年度にも居宅ケアマネ向けに実施する予定があることを報告する。

ちょっと coffee break

「ベジガール♥」 会員K

森ガール、山ガール、釣女（ちょうじょ）…。
色々な流行女子がありますが、私は何だろう？

以前は「趣味」と豪語したマラソンや自転車も最近のご無沙汰だし、ダイエットに始めたボクササイズやカーヴィーダンスも一向に効果無し…。

「そうだ！野菜の事なら熱く語れる!!」と、勝手に『ベジガール』を名乗りました（笑）

思えば、幼少時から大の野菜好き。野菜嫌いの弟にも無理強いし、「あんたが野菜食べられるようになったのはお姉ちゃんのお陰よ」と今でも恩を着せ、嫌われています。

こんな私のパワースポットはずばり「JA」、いわゆる農産物直売所です。お気に入りには『あぐれっしゅ川越』。国道254号線沿い初雁公園向かい、博物館交差点前です。

買物に行けた時は色とりどりの新鮮野菜達を前にテンションMAXです。『食育ソムリエ』の

おススメ調理法で、珍しい野菜にも挑戦できます。

四季の野菜にはそれぞれ効用があり、伝統野菜や地域野菜を見直す動きもあるようで本当に奥が深くて美味しい野菜。

担当する利用者の方が家庭菜園で自給自足されていると「何て贅沢なんですよ！」と羨ましくなります。理想の老後はもっぱら『自給自足』です。

今は義父の介護予防のため細々やっている縁側菜園も、ゆくゆくはご近所におすそ分けできるぐらいに拡大するぞ！と野望を抱きつつ次回の方へバトンをつなぎます。

前回投稿のYさんからご指名をいただいたのは、かれこれ3ヶ月ほど前…。

練りに練ってこの内容？

…ご期待に添えず、すみません(。。。)；

会員K（アラ〇ーだろうと女子です）

あとがき

今年の夏は、ことのほかの暑さ、夏の疲れがどっと出たりはしていませんか。さいたま市では、35度以上の猛暑日が、19日ありました。昨年が18日（猛暑と言われた2010年は、33日）で、温暖化の影響でしょうか？暑さも一段落し、吹く風も心地よい好季節になり、気分もリフレッシュ！今後も皆さんに読んでいただける広報誌を目指してまいります。

事務局より

会員の住所・事業所等登録事項に変更があった場合や入会・退会希望の場合は事務局までご連絡ください。

さいたま市介護支援専門員協会 事務局 野崎・西間木

（社福）さいたま市社会福祉協議会 大宮サービスセンター

電話番号 048 - 645 - 7470

FAX 048 - 645 - 7500

さいたま市介護支援専門員協会ホームページ

<http://www.saitamashi-keamane.jp>